



デジタル・ミュージアムの可能性

—新しい管理・研究・鑑賞に向けて—

Photo ©DNP Dai Nippon Printing Co., Ltd. 2021, with the courtesy of the Bibliothèque nationale de France.

日時

2024 11 / 30 sat.

体験：12時～16時 シンポジウム：14時～16時

会場

成城大学3号館

[体験スペース：学生ホール シンポジウム：003教室]

プログラム

「みどころシリーズ®」体験

- ①みどころキューブ
テーマや関係性などから作品をつなげるキューブ型のインターフェイス
- ②みどころギャラリー
バーチャル空間でのミュージアム体験
- ③みどころウォーク
ヘッドマウントディスプレイを装着し、移動しながら鑑賞するVR空間
- ④みどころビューア
高精細3DCGビューア
- ⑤みどころグラス
スマートグラスを用いたバーチャル作品展示

※各ブースは自由な順序で体験いただけます。お一人ずつ体験いただくため、お申込多数の場合は全ての作品を体験いただけない可能性があります。

シンポジウム「デジタル・ミュージアムの可能性」

- | | |
|------------|--------------------|
| 研究・教育の立場から | 喜多崎 親(成城大学文芸学部教授) |
| 開発の立場から | 田井 慎太郎(大日本印刷株式会社) |
| 美術館の立場から | 鴨木 年泰(東京富士美術館学芸課長) |

参加をご希望の方は、11/22(金)までに以下の事前申請フォームよりお申込みください。

<https://forms.gle/iRT6o13y8RsfGAM57>



※参加費無料 お申込み多数の場合は、学生を優先のうえ抽選となる場合がございます。
※未就学児の入場はご遠慮ください。

パネリスト・プロフィール

田井 慎太郎 (たい・しんたろう)

2009年3月、成城大学大学院文学研究科 美学・美術史専攻 博士課程前期 修了。2009年4月、大日本印刷株式会社に入社。以来、ミュージアム施設を中心とする鑑賞システム・スペースデザインの企画開発に従事。2019-2022年にフランス国立図書館リシュリュエ館のプロジェクトを担当し、鑑賞システム「みどころシリーズ」を開発。現在は、2025年大阪・関西万博におけるシグネチャーパビリオンの体験展示の企画・開発を担当。

鴨木 年泰 (かもぎ・としやす)

東京富士美術館 学芸課長(学芸員)、全国美術館会議 情報・資料研究部会 幹事、東京造形大学・中央大学 非常勤講師(博物館情報・メディア論)。専門は日本美術史、刀剣、美術情報資料・収蔵品データベース。最近の論文等に「美術館の収蔵品における情報管理の現場からオンライン・ミュージアムまで」(『東京富士美術館研究誌 ミュージアム』7、東京富士美術館、2023年3月)、「『デジタルアーカイブ』「ミュージアムDX」のゴールの先にあるもの—ミュージアムの活動領域の拡張を目指して」(アーツスケープ <https://artscape.jp/article/9738/>、2024年4月) など。

喜多崎 親 (きたざき・ちかし)

成城大学文芸学部教授。国立西洋美術館主任研究官、一橋大学大学院教授などを経て、現職。博士(文学)。19世紀後半のフランス美術史が専門。主著『聖性の転移—19世紀フランスにおける宗教画の変貌』(三元社)、『魅する詩人の竖琴—ギュスターヴ・モロー作品に於ける詩人イメージの変遷』(羽鳥書店) など。

お問い合わせ先

成城大学文芸学部 TEL 03-3482-9412

成城学園砦移転100周年 —これからも街とともに—
本イベントは地域住民の皆様も歓迎いたします。

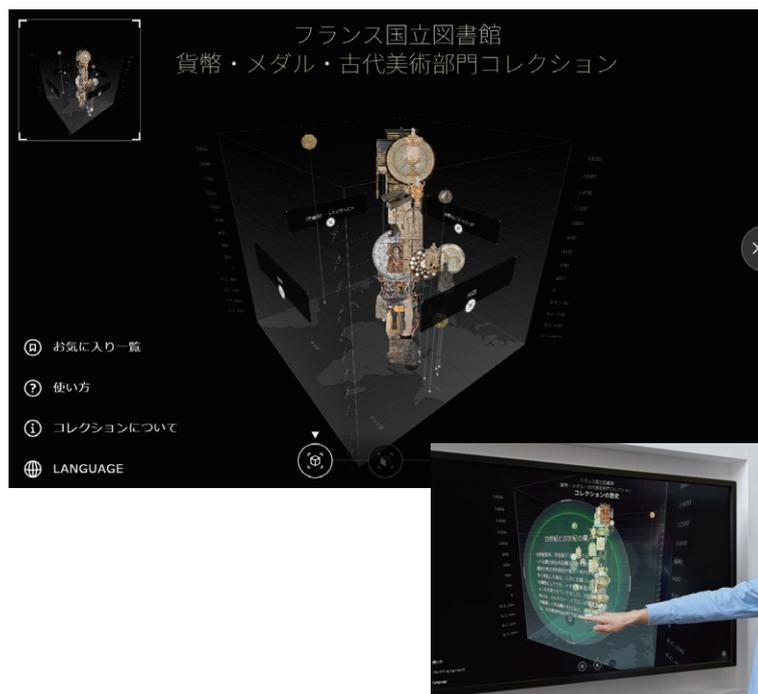
今日デジタル技術のめざましい向上によって、美術作品の鑑賞の場に、高精細画像による拡大、360度から鑑賞できる3DCG、バーチャル・リアリティの空間などさまざまな新しい試みが導入されています。

美術館におけるデジタル化は、所蔵品のデータベースという管理業務から、インターネットによる画像や情報の公開、さらには館内における様々な鑑賞ツールへと展開を遂げており、今後AIなどのリンクによってますますその可能性は広がっていくことでしょう。芸術作品の中でも特に美術作品は実物に接することが重要だと考えられてきましたが、今でもそれは基本的には変わらないと思いますが、その一方でデジタル化が、実物以上の細部の観察を可能にしたり、物理的・空間的制限を乗り越えたりするばかりではなく、実物を体験するのとは異なる、新しい研究や鑑賞の可能性を持っていることも否めません。

この企画では、美術品のデジタル化に関して大きな実績のある大日本印刷（DNP）の協力を得て、新たな鑑賞ツールを大学内に展示して実際に体験してもらい、その上で、美術史研究者、デジタル系開発者、美術館学芸員などによる発表と討議を行うことで、学生や一般の方々に、デジタル・ミュージアムが持つ現在の問題点と将来の可能性について知っていただくことを目的としています。



デジタル技術は 美術作品の研究・鑑賞を どう変えるのだろうか？



DNPの取り組み

DNPは、印刷技術で培われた高精細画像処理の技術とノウハウを活かし、デジタルアーカイブのソリューションを展開しています。その内容は、文化財の「保存」のみではなく、「公開」も見据え、自社独自の鑑賞システムを開発するなど、総合的にサービスを提供しています。文化財の多面的な見方を提供することで、生活者一人ひとりの自由で豊かな学びや暮らしを実現することをめざしています。DNPには世界文化遺産の撮影・デジタル化に関する豊富な経験を持つスタッフが在籍しており、文化財撮影スタッフやミュージアム専任スタッフは、国内外の数々の美術館・博物館に対して、その実績を積み重ねてきました。また、鑑賞システムの自社開発など、スタッフたちは自らの経験を活かし、文化財の価値を高める方法を創出する活動にも取り組んでいます。現在、画像貸出事業や展示システムの開発、グッズ制作などにおいて、国内外70館以上のミュージアム施設との幅広い取引実績があります。

Photo ©DNP Dai Nippon Printing Co., Ltd. 2021, with the courtesy of the Bibliothèque nationale de France.

お問い合わせ先

成城大学文芸学部 TEL 03-3482-9412

成城学園砦移転100周年 —これからも街とともに—
本イベントは地域住民の皆様も歓迎いたします。